

# 「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

## 守り続けたい貴重な財産

今年の江尾十七夜は土曜日に開催されます。実は6年前の8月17日も土曜日でした。小説「天の蜚」の著者、松本薫さんを江府町にお招きして、江尾十七夜を実際に見ていただきました。こだいち踊りや町並み、多くの人でにぎわう様子など、心に刻まれたものがあつたと思います。その記憶の冷めないうちに、町内の有志の皆さんに呼びかけ、松本薫さんを囲んで、江尾十七夜を語る会を開催。江尾十七夜をテーマにした小説を書くことを快諾していただきました。執筆にあたり苦労もあつたようです。戦国時代に当地を治めていた江美城主・蜂塚右衛門尉のことを記述した「陰徳太平記」くらいしか資料がなく、昭和46年に井上健治元町長が町報に寄稿された「江美十七夜物語」を参考にしながら、感動的な物語を創作していただきました。7月18日(木)に



▲明徳学園一般講座での、白石町長(写真左)と松本薫さん(写真右)の対談の様子

開催された明徳学園一般講座で、講談にアレンジした「天の蜚」を演じると共に、創作までの話や今後の展開など、わかりやすくお話ししていただきました。聴講された方からは、「こだいち踊りに込められた意味がよくわかった」とか、「江府町の貴重な財産を、小説という形にして残してもらえて感謝したい」など、いい話を聞けて良かったという声が数多くありました。

「江尾十七夜」は今年も開催されます。この祭りが続く限り、江府町は、そして、江府町民の魂は不滅です。私たちの貴重な財産を、今後も守り続けていこうではありませんか。

# 「3000人の楽しい町プロジェクトチーム」(※)活動報告

令和元年度のプロジェクトチームが目指すのは、若手職員による職場環境の改善です。

「小さなカイゼン部活動」と銘打ったその取組みの第一弾として、7月12日(金)と18日(木)に職員を対象とした勉強会を開催しました。

勉強会では、まず、昨年度の事務改善提案のひとつである『文書管理改善プログラム』について、改めて内容を共有しました。

日ごろ、仕事をやる中で感じている職場環境についての疑問。「もつとこうした方が効率よくなるのではないか」、「ここを変えた方が公共サービスの質も上がるのではないか」、といったクエスチョンマークは、「問題解決のタマゴ」です。

新庁舎への移転を控えた今こそ、変化を起こすチャンスに他なりません。

今年度は、若手職員がグループに分かれてこのタマゴを育み、

職場改善の取組みへと羽ばたかせることを目指します。

部活動の内容としては、若手職員をグループに分け、各々で選んだ職場の問題点・疑問点について話し合い、改善のアイデアを発表することがゴールです。部活動の状況については、今後の町報で紹介していきます。最終的には町民のみなさんに向けた発表会も計画していますので、ご期待ください！



▲勉強会の様子

これまでの活動はこちら!



これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。

※「3000人の楽しい町」プロジェクトチームとは・・・有志の20～30歳代の江府町役場職員と、その職員から選出されたリーダーで構成。今年度で4期目を迎え、楽しい町の支障となる様々な課題について課を越えて取り組む。